上関原発計画撤回求め1250名集う

原水禁広島HPより

8月28日、山口県上関町で「8．28さようなら上関原発全国集会」が開かれました。祝島の島民、九州・中国地方の労働組合員を中心に北は新潟から南は沖縄まで1250人が集まりました。上関原発反対と脱原発を掲げ、長崎爆心地公園を8月16日、広島平和公園を8月26日に出発した上関原発反対キャラバン隊も合流しました。

1982年に上関原発計画が浮上して以来、祝島の島民は生活の糧である海を守るため、30年にもわたり一貫して反対してきました。上関原発については、一昨年（2009年）の原水禁大会で取り上げられ、原水禁として全国的に取り組まれるようになりました。日本生態学会、日本鳥学会、ベントス学会などが日本政府に要望書の提出、世界への発信、シンポジウムの開催、「軌跡の海」が出版されるなど、上関の自然を守る運動も拡がりました。反対署名も全国的に取り組まれ、目標の100万筆を超え、８月１日に経産大臣に提出されました。

3.11以降、山口県内では、19市町村議会の内13議会で上関原発の「中止」や「凍結」が決議され、県議会でも「凍結」の意見書が決議されました。二井知事は上関原発予定地の埋め立て免許の再延長は認めないと表明しています。

「日本最後の新規立地点」上関原発を中止に

集会では、祝島島民の山戸さんは、3.11以降埋め立て工事は止まっているが、安心できないと。止まっている工事を再開させず、「日本最後の新規立地点」である上関原発を中止に追い込むとの決意を述べました。また、長島の自然を守る会の高島さんは、カンムリウミスズメやオオミズナギドリの繁殖する豊かな海を守るとの決意を述べました。日本や世界の海鳥グループが、近々日本政府に要望書を提出するとの報告があり、自然環境を守り、人々を守ることを訴えられました。

フクシマを忘れさせないために闘おう

福島の平和フォーラム代表の竹中さんから現地報告がありました。５月１２日以降線量計を付けており、 累積は544マイクロシーベルト（１日平均５マイクロシーベルト）になること。福島では夏休み中に約１万人もの小中高生が県外に移住し、園児も３割が減っている実態。海の魚の600～700ベクレルの汚染、川魚はさらに深刻で伊達市ではアユに1610ベクレルの汚染が。福島県は人が住めない土地、耕せない田畑、孫子らの未来など、銭金で取り戻せないものを失った。祝島の人々は金で買えない大きなものを守っている。福島を決して忘れさせないため、国、政治の責任を追及すべきだと訴えられました。深刻な福島の実態と闘う決意を聞き、参加者はフクシマ事故を繰り返してはならず、上関原発計画撤回と脱原発への決意を新たにしました。

参加者は「上関原発絶対反対」の横断幕を先頭に室津の町内をデモ行進し、上関原発建設計画の中止を訴えました。上関原発計画の中止が、脱原発の大きな象徴となり、全国1000万署名をはじめとする「さようなら原発1000万人アクション」の成功させ、エネルギー政策転換を実現しようとの集会宣言を採択し、閉会しました。